

す。この結果、後にあげる事業を立ち上げる余裕も出てきました。

TCERは、大学横断的な研究組織として、日本では貴重な存在です。ネットワーク組織により、他大学の先生方のうち、同じ研究分野の先生を結びつける、「規模の利益」を追求する役割りを果たしています。また、先端的な研究をしている別分野の先生方が集まる事による「範囲の利益」もあります。何十年もまえの我々の先輩の大先生が、財団法人を設立してくれていたことを受け継ぐのみならず、21世紀における、その可能性も生かしたいと思えます。

TCERは、その組織として持つ可能性を十分に生かしているとはいいいがたいものがあります。アメリカにおけるNBERの成功、ヨーロッパにおけるCEPRの成功を考えると、日本・アジアに同様の経済学者の研究組織がない、ということは非常に寂しいことです。(もたもたしていると、数年のうちに、韓国か、中国が、アジアにおけるNBERのようなものをつくってしまうかもしれません。)

私が、ハーバード大学の大学院生だった1970年代後半は、パソコンもなく、計量経済学の授業の宿題は、パンチカードをもって、コンピューター・センターに行き、計算依頼をしてから何時間か経って、そのアウトプットをもらいに行く、ということが必要でした。いまのパソコンなら1分でできる計算を2時間くらい待ち時間がある、という状態でした。レポートは、自分でタイプライターを叩くのですが、コメントをもらってからの論文の改訂は、大仕事でした。博士論文は、プロのタイピストを雇って、きれいにタイプしてもらおうのですが、その原稿は、きっちりと書いておかないと、修正は難しいからです。いまの、ワープロの世界では考えられないような学問の旧石器時代でした。(ちなみに、当時、アメリカの東海岸の大学には、林文夫(ハーバード)、植田和男(MIT)、吉川洋(イェール)、浅子和美(イェール)、吉野直行(ジョンズ・ホプキンス)、本多佑三(プリンストン)、敬称略、が留学しており、休みには、行き来したりしていたのが懐かしい思い出です。故、石川経夫先生は、ハーバード大学の助教授、岩井克人先生はイェール大学の助教授でした。当時、私の専攻(関連)分野では、宇沢弘文先生、根岸隆先生が、はるか天上に輝く星でした。アメリカにいらっしゃって、セミナーをされるのに出席するときには、なんとなく日本人として誇りを持ったものでした。後にお二人は、Econometric Societyの会長をされました。)

1978年に、ハーバード大学のフェルトシュタイン教授が、NBERの代表(President)を引き受けて、NBER本部をニューヨークからハーバード大学のあるケンブリッジの町へ、引っ越させました。(多分それが、彼が引き受ける条件だった。)NBERは伝統のあるシンクタンクで、第二次大戦後には、おおくの歴史的統計資料をまとめる仕事をしていました。また、アメリカの景気循環の山谷に日付けをつける機関としても有名でした。しかし、統計の一次資料作成の地道な作業も、コンピューターの発達とともに、多くの機関が行えるようになってきており、NBERの存在意義が問われていたといえます。

フェルトシュタイン教授のNBER改革の第一歩は、教授の分野別ネットワーク組織を作り、その分野(プログラム)別の研究会を年二回行うとともに、夏季休暇(7月中旬から8月初旬)にかけて、ケンブリッジで、Summer Institute(夏合宿)を開催する、というものでした。第二に、NBERのworking paper series(例の、黄色の表紙のもの)が刊行されました。教授がそれぞれの大学で出しているworking paperをNBERでも再録するというものです。いまでは、NBERのworking paperは、論文の最終的な出版先の専門誌よりも多い発行部数を誇っています。第三に、フェルトシュタイン所長は、外部資金(日本の科研費にあたるNSF研究費や企業からの寄付金)をNBERを通して導入することを奨励しました。大学は、間接経費として60%くらいチャージするのですが、

NBER は、これを 40% くらいに抑えたのです。

1978 年に本部となるビル の 3 階の内装をしているころから、NBER を見てきましたが、当時の NBER からは、いまのような NBER ができるとは想像もできませんでした。私は、当時、理論経済学を専攻していて、理論モデルで博士論文を書こうとしていたので、Jerry Green 教授の Research Assistant をすることで、NBER のなかに机をもらっていました。おおくの NBER のプログラム・ディレクターは、ハーバードや MIT の先生だったので、週のうち何日か NBER に顔を出す程度でしたが、Research Assistant の大学院生は、ほとんど毎日のように、夜遅く（朝早く）まで NBER に詰めていました。（いまはハーバード大学学長となったサマーズはこのころの NBER Research Assistant 仲間です。）

NBER の活動を通じて、私は研究者として多大の便益を享受してきた。研究論文のうち何本かは、Summer Institute に参加しているうちに、そこでの出会いがきっかけで共同研究に発展したものです。また、Anne Krueger 教授と 12 年間、East Asian Seminar on Economics として毎年コンファレンスを行い、その成果を出版してきたのは、NBER と TCER のおかげです。（これは、Krueger 教授が IMF の筆頭副専務理事に転出された後、Andrew Rose 教授との共同プロジェクトとなって継続しています。）私は、本当に、NBER のメンバーであって、よかったと思っています。

NBER は、フェルトシュタイン教授が代表になって、25 年に経過しました。今年になって、ホームページのデザインを一新、ますます使いやすくなっています。（www.nber.org を訪れてみてください。）私の TCER を考える原点は、どうしても NBER になってしまいます。NBER のようなものを日本につくりたい。これまでも、TCER は、NBER と共同でいくつものプロジェクトを走らせてきました。TRIO（12 月）、EASE（6 月）、Japan Program（9 月）などである。国際的なコンファレンスでは、TCER は、日本でも第一級の貢献をしています。しかし、国内活動が、いまひとつです。

TCER において、今年度実現したいと考えている事業につきのようなものがあります。（理事会、総会の承認を頂いています。いずれも NBER の受け売りです。）

- (1) TCER のホームページを充実させる。わかりやすい URL アドレスを取得した上で、ホームページの充実をはかります。NBER のホームページ (www.nber.org) には、遠く及ばないでしょうが、まず、第一歩として、TCER の Working Paper シリーズをネット上で刊行したいと思います。皆さんが、各大学で発行している Working Paper の電子版を TCER のネット上でも公開することで、TCER のホームページにいけば、自分の研究分野の Working Paper にすべてアクセスできる、というようにしたいのです。最先端の文献サーチが楽になるでしょう。このためには、各分野のプログラム・リーダーの方に、そのプログラムで Working Paper を発行したい論文の質とスタイルのチェックをお願いする事になります。よろしく願います。
- (2) TCER 会員間のコミュニケーションを楽にするために、Email の転送サービスをはじめたいと思います。各大学の Email Address を覚えたり、メモする必要を無くするのです。TCER のメール・アドレス（研究者の名前そのままプラス TCER のドメイン名）から、指定のメール・アドレスに自動転送するものです。
- (3) TCER の分野別研究会の多くが休眠状態ですが、これを一つずつでも、起こしていきたいと思っています。

このほかにも、TCER にこんなことをして欲しい、という要望があればお知らせいただきたいと思います。

います。これまでは、理事の皆さんにも、TCERの灯を消さないために、多くの「時間の犠牲」をお願いしてきました。これからは、皆さんに「TCERの研究会員でよかった」と思われるようなサービスを提供していきたいと思っています。私の世代が、アメリカに留学してから、かれこれ30年経ちました。我々の世代の人たちも、いろいろな経験を経て、次の世代にバトン・タッチすることを考えるようになってきています。そのひとつの財産がTCERです。喜んで受け取ってもらえるようなものにしてから、バトン・タッチするのが、我々の世代に残された課題です。我々の世代からは、先輩のような空の上の星になる人材は輩出できなかつたかもしれません。(まだまだわからない?)でも、せめて地上の星として、TCERの向上に努めたいと思います。一年間、よろしくお願ひします。

(2) 2003年度理事紹介

2003年度の理事は以下のように決まりました。各理事のメールアドレスはTCERのサイトに掲載されております。(敬称略)

代表理事

伊藤 隆敏 (東京大学先端科学技術研究センター)

代表理事代理、総務(ホームページ担当)

小川 英治 (一橋大学大学院商学研究科)

国際活動担当

木村 福成 (慶應義塾大学経済学部)

企画担当

山崎 昭 (一橋大学大学院経済学研究科)

企画担当

樋口 美雄 (慶應義塾大学商学部)

総務担当

長岡 貞男 (一橋大学イノベーション研究センター)

会計・研究会担当

斉藤 誠 (一橋大学大学院経済学研究科)

渉外担当

西村 清彦 (東京大学大学院経済学研究科)

総務(報告書担当)

塩路 悦朗 (横浜国立大学経済学部)

総務(ニュースレター、名簿担当)

玉田 康成 (慶應義塾大学経済学部)

(3) 2003年度総会報告

2003年度の総会は4月10日(木)18:00より東京大学経済学部新棟3階講義室Bにて行われました。平成14年度収支報告、平成15年度予算の提案、承認などが行われました。

2.TCER 研究会

2002年度のTCER定例研究会は一橋大学にて行われます。(敬称略。)

日時：2003年6月3日(火) 午後4:20-6:00
報告者：Professor Keith Maskus (University of Colorado)
テーマ：The Impact of Parallel Trade in Pharmaceutical Products: Evidence from the European Union
場所：一橋大学第2研究館2階経済学研究科会議室

日時：2003年6月10日(火) 午後4:20-6:00
報告者：瀧澤弘和氏(経済産業研究所フェロー)
題名："Coordination Costs and the Optimal Partition of a Product Design"
場所：一橋大学磯野研究館・2階：研究小集会室(Room215)

日時：2003年6月26日(木) 午後4:30-6:00
報告者：米澤 康博 氏(横浜国立大学経営学部)
題名：年金ALMと株式投資—低下する株式リスク・プレミアム
場所：一橋大学経済研究所4階会議室

日時：2003年7月8日(火) 午後4:20-6:00
報告者：Professor Hodaka Morita (Univ. of New South Wales)
題名："Free Entry and Social Efficiency under Vertical Oligopoly"
場所：一橋大学経済研究所4階会議室

日時：2003年7月17日(木) 午後2:40-4:10
報告者：Professor Marcus Berliant (ワシントン大学)
題名："Budget Balancedness and Optimal Income Taxation"
場所：一橋大学磯野研究館・2階：研究小集会室(Room215)

日時：2003年7月17日(木) 午後4:30-6:00
報告者：藤田 昌久 氏(京都大学経済研究所)
題名：「新しい経済成長理論と空間経済学の融合--知識労働者のサイクリカルな地域間移動の可能性とイノベーション-- "Agglomeration and Growth with Sticky Innovations: on the possibility of skilled workers' cyclical migration" (with J.-F.Thisse)」
場所：一橋大学磯野研究館・2階：研究小集会室(Room215)

3. TCERセミナー

1. 開催目的

東京経済研究センター（略称：TCER）に深い理解を示す学界や官界の論客を講師にセミナーを開催する。学術的にサポートされた政策論議の展開により、経済同友会会員への有益な情報提供を行なう。

2. 開催要領

- ・原則として年間10回程度開催（各回2時間程度）。
- ・講演会形式、または、講師と経営者（経済同友会会員）とのパネルディスカッション方式等。

3. セミナー案内先

- ・東京経済研究センターの研究活動助成として下記の金額をご援助戴いた経済同友会会員等とする。一口10万円/年（一口につき一名ずつメンバー登録）。
- ・メンバー登録は年度単位とする。
- ・登録名義は、経済同友会会員本人の他、所属企業の役員（経済同友会非会員）、企画・調査部など関係部門も可とする。随行・代理参加も1名まで可とする。

4. 2002年度セミナー開催実績

* 所属・役職は開催当時

第18回（2002年度第1回）TCERセミナー（2002.5.16）

テーマ：「インフレ目標について考える」

基調講演：齊藤 誠 一橋大学大学院経済学研究科教授

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

木村 剛 経済同友会 幹事/KPMGフィナンシャル 取締役社長

コーディネーター

：西村清彦 東京経済研究センター副代表理事/東京大学大学院経済学研究科教授

第19回（2002年度第2回）TCERセミナー（2002.6.11）（予定）

テーマ：「規制改革の現状とあるべき姿」

基調講演：八田達夫 東京大学空間情報科学研究センター教授

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

奥谷禮子 経済同友会 幹事/ザ・アール 取締役社長

コーディネーター

：西村清彦 東京経済研究センター副代表理事/東京大学大学院経済学研究科教授

特別講演会（2002.6.12）

テーマ：「わが国における政策形成と非営利・独立シンクタンクの必要性について」

基調講演：上野真城子 アーバン・インスティテュート 研究員

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

コーディネーター

：西村清彦 東京経済研究センター副代表理事／東京大学大学院経済学研究科教授

第20回 (2002年度第3回) TCERセミナー (2002.9.19)

テーマ：「公共事業の今後のあり方について—投資選択、入札契約制度、経営形態」

基調講演：金本良嗣 東京大学大学院経済学研究科教授

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

小川 是 経済同友会幹事／日本たばこ産業 取締役会長

コーディネーター

：伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第21回 (2002年度第4回) TCERセミナー (2002.10.15)

テーマ：「地方財政制度改革について」

基調講演：木村陽子 地方財政審議会委員

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

江口克彦 経済同友会 幹事・地方行財政委員長／PHP総合研究所 取締役副社長

コーディネーター

：伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第22回 (2002年度第5回) TCERセミナー (2002.11.12)

テーマ：「日本のFTA (自由貿易協定) 戦略」

基調講演：浦田秀次郎 早稲田大学社会科学部教授

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

畠山 襄 経済同友会 幹事／財団法人国際経済交流財団 会長

コーディネーター

：伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第23回 (2002年度第6回) TCERセミナー (2002.12.4)

テーマ：「金融システム改革について」(仮題)

基調講演：池尾和人 慶応義塾大学経済学部教授

コメンテーター

：水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

福井俊彦 経済同友会 副代表幹事・諮問委員長／富士通総研 理事長

コーディネーター

: 伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

授

第 24 回 (2002 年度第 7 回) TCER セミナー (2003. 1. 17)

テーマ: 「2003 年の日本経済の課題と可能性」

基調講演: 伊藤元重 東京大学大学院経済学研究科教授

コメンテーター

: 水口弘一 経済同友会 経済研究所長・終身幹事

三國陽夫 経済同友会 幹事・金融資本市場委員長／三國事務諸 代表取締役

コーディネーター

: 伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第 25 回 (2002 年度第 8 回) TCER セミナー (2003. 2. 26)

テーマ: 「デフレーションと日本経済」

基調講演: 植田和男 日本銀行政策委員会審議委員

コメンテーター

: 細谷英二 経済同友会 副代表幹事・行財政委員長／東日本旅客鉄道 取締役副社長

渡辺正太郎 経済同友会 副代表幹事・専務理事・経済研究所長

コーディネーター

: 伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第 26 回 (2002 年度第 9 回) TCER セミナー (2003. 3. 27)

テーマ: 「構造改革と日本経済」

基調講演: 吉川 洋 東京大学大学院経済学研究科教授

コメンテーター

: 前原金一 経済同友会幹事・行財政副委員長／住友生命総合研究所 取締役会長

伊藤穰一 経済同友会幹事・ITがバハンス副委員長／ネオテニー 取締役社長

コーディネーター

: 伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

第 27 回 (2002 年度第 10 回) TCER セミナー (2003. 4. 17)

テーマ: 「日本が求められる雇用戦略」

基調講演: 樋口美雄 慶応義塾大学商学部教授

コメンテーター

: 斎藤博明 経済同友会 幹事・企業経営副委員長／TAC 取締役社長

田中 滋 経済同友会 諮問委員会雇用問題プロジェクトメンバー
／ハイ コンサルティング グループ 取締役社長

コーディネーター

: 伊藤隆敏 東京経済研究センター副代表理事／東京大学先端科学技術研究センター教授

4. 第13回 NBER-TCER 東アジア経済セミナーの報告

第13回目にあたる2002年はProductivityをテーマとし、オーストラリアのProductivity Commissionをホストとして6月20-22日にオーストラリアのメルボルンで開催された。オーガナイザーは伊藤隆敏（東京大学）とAndrew Rose教授（カリフォルニア大学バークレー校）であった。共催者の一つであるTECR側の担当者は深尾京司（一橋大学）が務めた。プログラムは下記の通りである。

THURSDAY, JUNE 20:

8:45 AM : Welcome

Chair: ANDREW ROSE, UC, Berkeley and NBER

9:00 AM : STEVE DOWRICK, Australian National University

Ideas and Education: Level or Growth Effects? Lessons from the Cambridge Counter-Revolution and Implications for Australian Economic Growth

Discussants: JOHN LEAHY, Boston University and NBER

ANDREW ROSE, UC, Berkeley and NBER

10:00 AM : Break

10:15 AM : DAVID LI and CHANGQI WU, Hong Kong University of Science and Technology

Economic Growth, Investment and Productivity after GATT/WTO Accessions: Evidence from the World

Discussants: SIMON JOHNSON, MIT and NBER

EPICETUS PATALINGHUG, University of the Philippines

11:15 AM Break

11:30 AM : KEIKO ITO, ICSEAD

Foreign Ownership and Productivity in the Indonesian Automobile Industry: Evidence from Establishment Data for 1990-1999

Discussants: MUHAMMAD CHATIB BASRI, University of Indonesia

FRANCIS LUI, Hong Kong University of Science and Technology

Chair: To Be Announced

2:00 PM : CHIN HEE HAHN and YOUNGJAE LIM, Korea Development Institute

Micro Evidence on the Effect of Bankruptcy Policy Reform on Post-Crisis Productivity Growth in Korea

Discussants: CHONG-HYUN NAM, Korea University

EPICETUS PATALINGHUG, University of the Philippines

3:00 PM : Break

3:30 PM : ASSAF RAZIN, Cornell University and NBER

EFRAIM SADKA, Tel Aviv University

FDI Flows, Portfolio Flows and Domestic Investment: The Role of Information

Discussants: **KYOJI FUKAO**, Hitotsubashi University
DEAN PARHAM, Productivity Commission, Australia

4:30 PM : Adjourn

7:30 PM : Dinner, Windsor Hotel, Canberra Room

FRIDAY, JUNE 21:

Chair: RICHARD SNAPE, Productivity Commission, Australia

9:00 AM : **ANDREW CAPLIN**, New York University and NBER

JOHN LEAHY, Boston University and NBER

On the Relationship between Representative Agent and (S,s) Models

Discussants: **JONG-IL KIM**, Dongguk University

ASSAF RAZIN, Cornell University and NBER

10:00 AM : Break

10:30 AM : **KYOJI FUKAO**, Hitotsubashi University

TOMOHIKO INUI, Nihon University

HIROKI KAWAI, Keio University

TSUTOMU MIYAGAWA, Gakushuin University

Sectoral Productivity and Economic Growth in Japan: 1970 - 1998

Discussants: **PETER DRYSDALE**, Australia-Japan Research Centre

ANDREW ROSE, UC, Berkeley and NBER

11:30 AM : Lunch and Adjourn

1:30 PM : Coach trip to Yarra Valley

Guided visit to Healesville Sanctuary (over 200 species of native animals)

Wine tasting at Yering Station

Dinner at Sweetwater Café, Chateau Yering

SATURDAY, JUNE 22:

Chair: CHONG-HYUN NAM, Korea University

9:00 AM : **DEAN PARHAM**, Productivity Commission, Australia

Australia's 1990s Productivity Surge and Its Determinants

Discussants: **CHIN HEE HAHN**, Korea Development Institute

FRANCIS LUI, Hong Kong University of Science and Technology

10:00 AM : Break

10:15 AM : **HIROKI KAWAI**, Keio University

The Sources of Inefficiency in Current Japanese Economy

Discussants: **TAKATOSHI ITO**, University of Tokyo and NBER

JUNGHO YOO, Korea Development Institute

11:15 AM : Break

11:30 AM : DARON ACEMOGLU and SIMON JOHNSON, MIT and NBER
JAMES ROBINSON, UC, Berkeley

Institutions, Volatility, and Crises

Discussants: **DIPINDER RANDHAWA**, National University of Singapore

12:30 : PM Lunch

Chair: TAKATOSHI ITO, University of Tokyo and NBER

2:00 PM : JONG-IL KIM, Dongguk University

Impact of Information Technologies on Firm Performance in Korea

Discussants: **CHONG-HYUN NAM**, Korea University

DIPINDER RANDHAWA, National University of Singapore

3:00 PM : Break

3:30 PM : KUEN-HUNG TSAI and JIANN-CHYUAN WANG, Chung-Hua Institution for Economic Research

Productivity Growth and R&D Expenditure in Taiwan's Manufacturing Firms

Discussants: **TSUTOMU MIYAGAWA**, Gakushuin University

JUNGHO YOO, Korea Development Institute

4:30 PM : Adjourn

7:00 PM : Dinner - The Empress of China 6/19/02

5. TCER コンファレンス

(1) TCER プロジェクト（旧遼子コンファレンス）の予定

通貨制度研究会（代表：福田慎一・小川英治）の主催により、平成 15 年 8 月 6 日（水）に函館において開催される予定です。このコンファレンスは、今年度末に予定している最終コンファレンスの前に開催する 3 回の予備コンファレンス（この内の 2 回は昨年度、平成 14 年 7 月 26 日（金）に台北で、そして、平成 15 年 3 月 15 日（土）・16 日（日）に鹿児島で行われた）の一つです。

プログラムは以下を予定しています。

平成 15 年 8 月 6 日（水）9：00－12：30

座長：福田慎一（東京大学）

9：00－10：00

「アジア通貨・株価のContagionと連動性に関する分析」

報告者：橋本優子（東洋大学）・伊藤隆敏（東京大学）

コメンテーター：清水順子（一橋大学）

10：00－11：00

“Trade-off for common currency basket denominated bonds in East Asia”

報告者：小川英治（一橋大学）・清水順子（一橋大学）

コメンテーター：橋本優子（東洋大学）

11：30－12：30

“The Asian Crisis and Corporate Governance”

報告者：花崎正晴（一橋大学）

コメンテーター：櫻川昌哉（慶応大学）

(2) CIRJE-TCER 第5回マクロコンファレンスの開催と報告論文募集のお知らせ

CIRJE-TCER 第5回マクロコンファレンスがCIRJE（東京大学日本経済国際経済研究センター）と共催で開催されます。有賀健（京都大学）とチャールズ・ユウジ・ホリオカ（大阪大学）と林文夫（東京大学）がOrganizerとなって、今年のコンファレンスは平成15年9月27日（土）に東大あるいはその近辺で行われます。論文の応募については、TCERのホームページを御参考ください。

(3) TCER ミクロコンファレンスの開催と報告論文募集のお知らせ

TCER ミクロコンファレンスがディセントライゼーション（DC）コンファレンスと共催で開催されます。大和毅彦（東京工業大学）がOrganizerとなって、今年のコンファレンスは平成15年10月11日（土）に東京工業大学大岡山キャンパス西9号館で行われます。論文の応募については、TCERのホームページを御参考ください。

編集後記

2003年度1号目のニューズレターをお送りいたします。例年よりやや発行が遅れましたことをお詫び申し上げますと共に、お忙しい中、執筆下さった理事の方々に感謝申し上げます。皆様、よい夏をお過ごし下さい。

Newsletter に関するご意見やご感想は、代表理事 伊藤隆敏 tito@rcast.u-tokyo.ac.jp,
または総務理事 玉田康成 tamada@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。